

港区子どもの未来応援施策基礎調査

報告書【概要版】

生活福祉調整課
子ども家庭課
子ども家庭支援センター

(1) 調査の目的

港区に暮らす子どもたちの未来を応援する「港区子どもの未来応援施策」の検討にあたり、港区における子どもと子育て家庭の生活状況や意識及び要望並びに必要な支援等を把握することを目的としてアンケート調査とヒアリング調査を実施しました。

(2) アンケート調査の概要

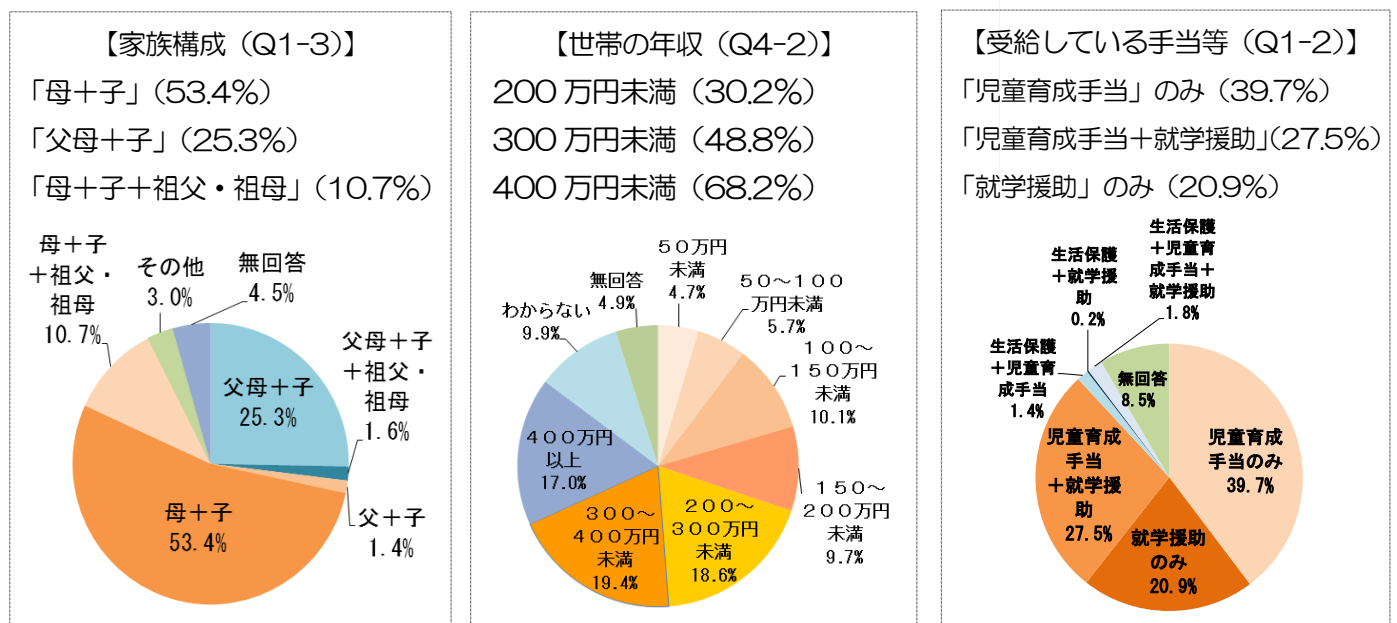
【調査対象】 ①児童育成手当を受給しているひとり親家庭の保護者 ②就学援助を受けている準要保護世帯の保護者 ③子どものいる生活保護受給世帯の保護者 ※全数抽出。

【調査時期】 平成 28 年 7 月 11 日（月）～7 月 29 日（金）

【実施方法】 郵送配布・回収によるアンケート（無記名）

【回答状況】 配布数 1,526 件、有効回収数 494 件、有効回収率 32.3%

【回答者の属性】



平成 25 年度に実施した「港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査」（以下、本報告書の中で「意識調査」と表記する）と、結果の比較を行った。

(3) ヒアリング調査の概要

【調査対象】 日頃より子どもとの関わりのある関係部署、施設等 15 か所

【調査時期】 平成 28 年 7 月 25 日（月）～8 月 19 日（金）

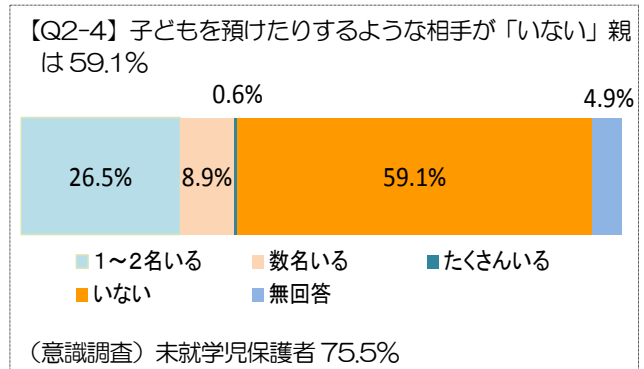
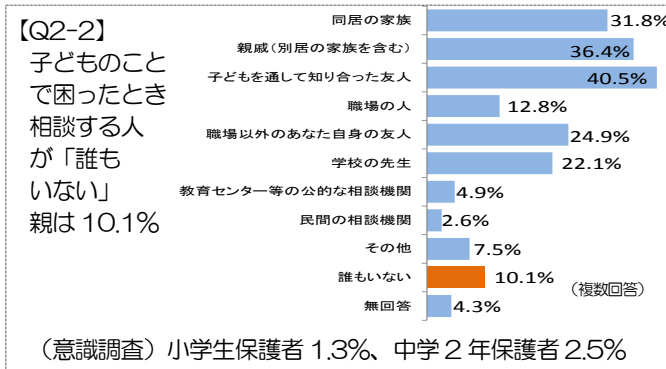
【実施方法】 調査対象の施設職員等に対して、事前に調査票を配布した上で、区職員が複数名で訪問し、ヒアリング調査を実施した。

【調査状況】 調査項目に従い分析のできる事例として 45 事例を調査した。

アンケート調査の結果（調査項目の一部抜粋）

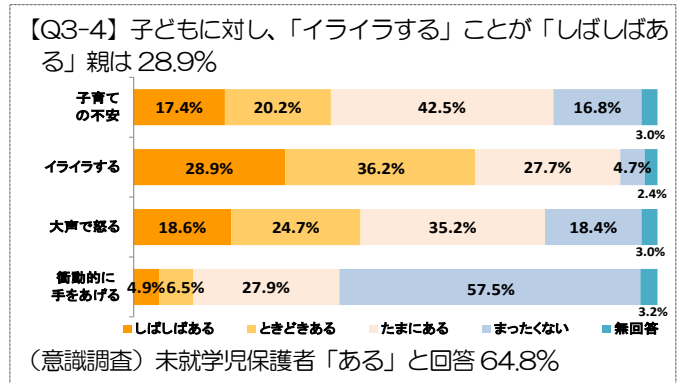
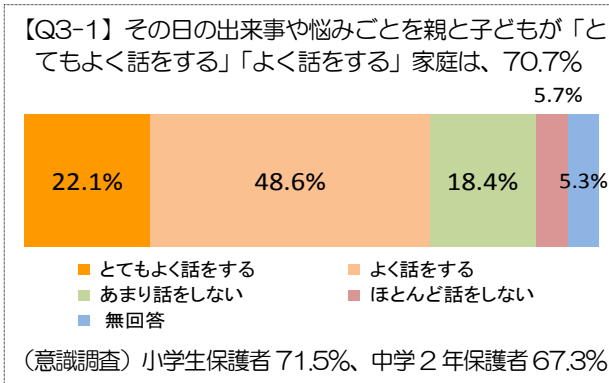
(1) 子育てについて

まわりに頼れる大人がいない親も多く、親の孤立の現状が垣間見える。



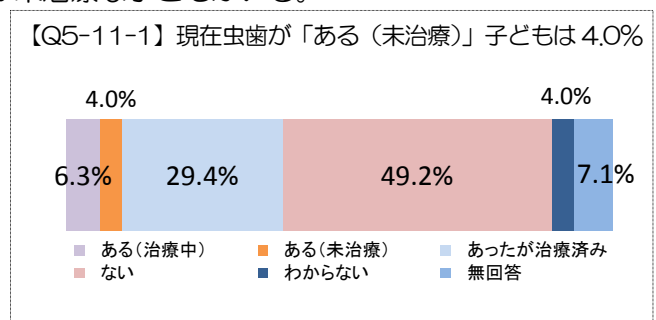
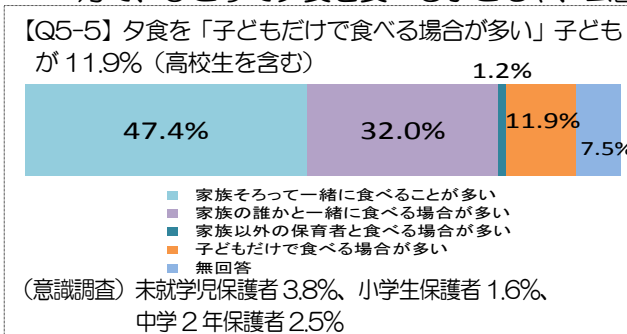
(2) 子どもとの関係について

日常の会話や一緒に過ごす場面など、子どもと関わる場面で、概ね良好な傾向がうかがえる。一方で、子育ての「不安」や子どもに対する「イライラ」が生じ、「大声で怒る」「衝動的に手をあげる」といった場面が見られる。



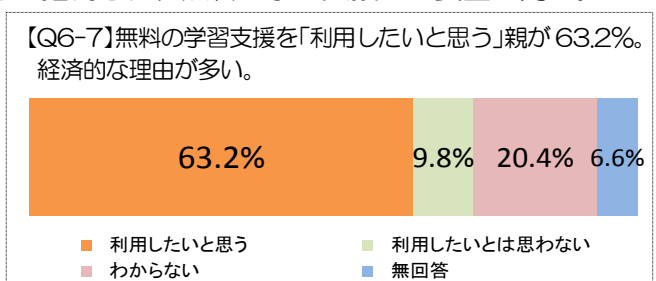
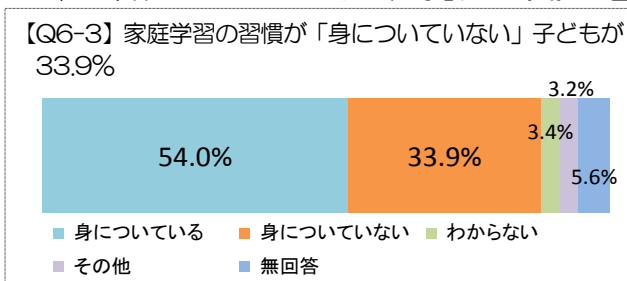
(3) 子どもの家庭での様子について

子どもの家庭での生活の様子については、生活習慣やしつけなど概ね良好な状況である。一方で、ひとりで夕食を食べる子どもや、虫歯が未治療な子どもがいる。



(4) 子どもの学習の状況や進学について

家庭学習の習慣が身につけていない子どもや、授業の理解度が低い子どもが一定割合いることが推測される。学習塾については、必要性を感じている保護者は多く、かつ実際に学習塾に通わせている世帯も半数にのぼっているが、家計への負担の重さが推測され、無料の学習支援への要望は高い。



ヒアリング調査の結果（調査項目の一部抜粋）

（1）問題となっている状況

【親の就労の問題】

就労が長続きしない、子どもを抱えているため短時間労働にならざるを得ない、健康面で就労ができないなど

【子育てに関する問題】

親の子育てや養育への不安、親が十分な養育ができていない、夜間の子ども一人での留守番など

【子どもの問題】

不登校、ひきこもり、学習の遅れ、意欲の低下、問題行動、通常的生活習慣の習得が出来ずに育つなど

【教育や進学などの問題】

経済的な問題で子どもが塾に行ったり、進学したりすることを諦めなければならない

（2）問題を生んだ原因

【親の健康状態】

健康状態やDV、成育歴などによる親の精神的な不安定

【親の余裕のなさ】

親が仕事中心の生活になり時間に余裕がなく十分な子育て、子どもとの関わりができない

【生活環境】

不衛生な家庭環境による子どもの健康面や精神面への影響

【子どものおかれている状況】

子どもの思いを受け止められる信頼できる大人が近くにいない、居場所がない、親の無関心や愛情の欠如

（3）関係部署等が関わっている家庭の状況

【ヒアリング調査対象者の経済的状況】

ヒアリング調査において、45事例中経済的な問題を有しない家庭は2割を超えた。

- ・「主に経済的事由に起因する問題を有する家庭」が11事例（24%）
- ・「主に非経済的事由に起因する問題を有する家庭」が10事例（22%）
- ・「経済的事由及び非経済的事由に起因する問題を複合的に有する家庭」が24事例（53%）

【関係部署等職員からの意見】

◇「子どもの貧困」の捉え方（民間支援団体）

世の中が多様化しているので、「子どもの貧困」は単に家庭の経済的状況だけで捉えることはできず、経済だけで見ると子どもの貧困はわかりづらい。

◇心の面での貧困（保健師）

関わる家庭には必ずといっていいほど心の面での課題がある。子どもに力はあるが、親がもたらす環境要因で子どもの力を奪い取ってしまっている。

「港区子どもの未来応援施策の方向性について」の検証

【アンケート調査と意識調査の比較から】 主に「(1)子育てについて」と「(2)子どもとの関係について」の設問で意識調査と比較した結果、同様な状況が見られた。

【ヒアリング調査から】 ヒアリング調査において、45事例中経済的な問題を有しない家庭は2割を超えており、問題を抱える家庭は、必ずしも経済的問題を抱えた家庭だけではなく。

「港区子どもの未来応援施策の方向性について」で述べられた「経済的には問題のない家庭でも、その家庭環境等において問題を抱える子どもが存在し、施策の対象とすべき子どもは、必ずしも経済的困窮状態にある家庭の子どもにとどまらない」とする港区の状況が、今回の調査で確認された。

本調査の結果から見えてきた傾向

(1) 子育ての状況

子育てにおいて、社会的孤立の状況が見られ、また養育力の低い事例が見られた。

子育てにおいて、まわりに頼れる大人がおらず、また、健康状態により孤立している現状が垣間見える。また、ヒアリング調査で、ネグレクトに近い養育力の低い親の事例が多数みられた。

(2) 親と子どもの関係

親の不安や余裕のなさが子どもの健全な生育を阻害している。

子どもに対して、イライラしたり、大声で怒ったり、衝動的に手をあげてしまう親もアンケートからうかがうことができ、親の影響により子どもが精神的に不安定となっている事例が多く見られた。様々な問題を抱える親の不安や余裕のなさが、子どもに様々な影響を与えていることが推測される。

(3) 子どもがおかれている状況

子どもがおかれている環境では、近くに子どもの思いを受け止めてくれる信頼できる大人がいない、落ち着ける居場所がない、親が無関心で愛情が欠如している、など様々な状況が重なっている。

ヒアリング調査の中では、近くに思いを受け止めてくれる信頼できる大人がいない子ども、見本となる大人がまわりにいない子ども、居場所がない子ども、親への愛情欲求が顕著な子ども等の状況が見られた。

(4) 子どもの学習

子どもは、様々な家庭環境の影響により、学習の遅れを生じている。

ヒアリング調査において、学習環境のなさや親の健康状態等で、学習の遅れが深刻な子どもの事例が見られた。また、ヒアリング調査において、1割を超える家庭で不登校または不登校ぎみの子どもがいた。

(5) 家計の状況と教育・進学にかかる費用

多くの家庭が、教育・進学にかかる費用の負担の重さを感じており、子どもも深刻に悩んでいる。

アンケート調査において、無料の学習支援について6割を超える希望があり、多くが経済的な理由であった。親や子ども自身の自由意見で、教育や進学についての経済的な不安が多く寄せられ、子ども自身も進学費用などの情報を求めている。また、ヒアリング調査においても、進学費用の問題が多く見られ、経済的に自立するために就労支援が必要な家庭が多く見られた。

アンケート調査・ヒアリング調査を通じての課題

【継続的な支援体制】

親と子どもに対する、子どもの成長段階に応じた途切れることのない継続的な支援体制の必要性

【子育て家庭の社会参加と生活の支援】

子育て家庭の親子の孤立の解消と生活の支援の必要性

【居場所や子どもの見本となる大人の存在】

子どもが安心して居られる居場所・子どもにとって理想となる大人の存在の必要性

【学習・教育の支援】

無料の学習支援の必要性

【子どもに対する情報発信】

子ども自身に対する進学費用等の情報提供の必要性